



撮影 写真集団横越島 坂井千代志さん

雪に挑む

“長いトンネルを抜けると雪国だった……” ご存じ川端康成の小説「雪国」は、雪深い温泉宿を舞台にひたむきな生の美しさと哀しさを謳っている。雪にはあまり縁のない人たちは、雪に美を感じたりロマンを感じるという。

しかし、雪国の現実には、自然の厳しさをまともに受けながら、たくましく生きていかなければならない宿命ともいべき生活がそこにある。

その中で人々は、雪に挑み、生活の知恵によって雪を克服し、雪の恩恵を生かした文化を切り拓いてきた。

雪国の美やロマンは、そうした雪に挑むたくましさではないかと思う。

この冬の除雪出動回数はすでに10回近く、村除雪機械と土産業者の機械14台がフル回転。1回出動するとおよそ60万円が出費。

2

59年

回おもな内容回

- 中学生まで広がった交流の輪 2P
- 1日1円交通災害共済で
最高100万円の保障 3P
- 市街化区域の農地、宅地化に
消極的 4,5P
- 保育園でカルタ大会 6P
- 小正月にサイの神行事 7P
- こどもサロン 8P

村のようす

<58年12月末日現在>

総人口	8,896人
うち	{ 男 4,334人
	{ 女 4,562人
世帯数	2,004
12月の動き	{ 出生 9人 死亡 5人
	{ 転入 12人 転出 20人